

第115回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2019年3月11日 (月) 14時～17時

兼題「卒業」「卒業期」

- 川井素山 ○春灯をつれて影引く屋形船
髪まとめ家路を急ぐ海人の声
卒業式ふる里今日も雪予報
沈丁花の木陰に幽か池の鯉
- 保井寶正 ○唐橋や瀬田の夕^{せきしょう}照 蜺舟
野に萌えて兵馬俑たり筆の花
卒業や晩生なれどはてしなし
春うらら菊ねりの土自在かな
- 佐久間喬 ○春愁や手術告げられ昨日今日
沈丁の香が闇さそふ雨やどり
春の閨病名知りて独り言
卒業子サッカーボールの寄せ書き
- 丸山酔宵子 ○古希迎へ飲み打つ買ふは卒業す
しまなみを見下ろす桜いざ散らん
桜散るグスクの海はエメラルド
卒業式革マルピケ張り豚放つ
- 菊地崇之 ○啓塾や我暁に床の中
卒業やさくらさく報えびす顔
白酒やカップの姉さん色仕掛け
露の薑苦き思いで母の味
- 吉田啓悟 ○陽炎を若き日の妻やつて来る
草餅に陽のぬくもりが隠し味
横にゐる無口と歌ふ卒業歌
舞ひ落ちる梅一輪のベランダに
- 青木英林 ○壺焼きの匂ひに呼応腹の虫
突出しの青^{ぬた}饅頭の香や縄のれん
ほつこりと頭覗かせ土筆出づ
卒業の袴姿や祖母譲り

- 山本草風 ○黒瓦烏滑らず春の霜
卒業のこの学び舎に悔い残し
梅の香や煙霞は遮らず
春の夕人力車夫の欠伸かな
- 渡辺鯨波 ○級長は悪童のまま卒業す
理科室の髑髏横目に卒業す
イケメンの漱石に会う春の闇
大佐渡の岬のカフェ鳥帰る
- 原 晶如 ○春^{きた}北風の波に連山乗りにけり
卒業の教室木の椅子木の机
含^{はにか}羞めるダイダラボッチ春の泥
蓬摘むをんな楽しむこと多し
- 後藤克彦 ○辛子菜の刺激求むる病上がり
卒業歌終わり一瞬の静寂よ
啓蟄や土穴多い雨上がり
数増える桜の蕾や目黒川
- 永井正孝 ○枝落しそろふ垣根に風光る
川向う遠くに霞む不二の峯
若草に流れゆつたり蔭うつす
卒業に離郷の別れ^{ひととせ}六十年に
- 金森純女 ○池を打つ雨に紅梅色散らす
卒業の袂ひらひら駆け抜けり
春疾風仏の眼にて歩きをり
曇天や菜の花ゆらりゆらりかな
- 澁谷瑠璃 ○永^と遠^はなんて無いと教える卒業期
- 佐久間たか子 ○初蝶の心もとない巣立ちかな
下駄箱の響く思い出卒業歌
芽柳の風のなすままダンシング
鯉の背が波模様えがく温む池
- 青葉ひかる ○卒業式大正モダンの袴ブーツ
桃花の蜜月関係崩れ去る
糾える縄の如しと春の風
桜色頬に突き刺す陽のひかり

次回「萩句会」

日時 2019年4月8日（月）14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『燕』一句
当季雑詠 三句